

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第7号
令和4年2月
和歌山県
長寿社会課

生活支援コーディネーター（SC）取組事例紹介 みなべ町「地域のお宝さがし・ニーズ把握」

みなべ町では、町社会福祉協議会の横畑さんと橋本さんが第1層の生活支援コーディネーターとして活躍されています。

これまでは、地域とのつながりを作り、支え合いの重要性を周知する事業などを主として活動してきたところです。今後の取組として、地域の日々のつながりや助け合い（お宝）とニーズを把握するための調査を実施することとなりました。今回、その実施方法について、県生活支援専門アドバイザーの派遣依頼があり、SCとともにアドバイザーも実際に地域を訪問することとなりましたので、同行させていただきました！



SC 横畑さん

地域の集まりを訪問してお宝さがし！ 併せて地域のニーズを聞きとる！

ココが
すごい！

地域のニーズ調査は様々な方法がありますが、今回、みなべ町では、地域の集いの場を訪問して会話の中から地域のお宝と併せてニーズを聞き取る方法を選択されました。

その理由としては、本当に仲の良い数人の集まりの雑談の中でこそ本音が聞き取れるから。また、その中で発見できた地域のお宝を今後見える化していきたいと考えているとのことです。



SC 橋本さん

訪問先の選び方は？

訪問先は、日常的に自然と集まっている場所と、体操など目的を持って集まっている場所を選びました。前者としては漁港2か所と喫茶店2か所です。すべて初めて訪問する場所です。後者としては体操サロン2か所とグラウンドゴルフの集まりで、すでに訪問したことがある場所ですが、より踏み込んだ聞き取りを行います。これら7か所を3日間にわたって訪問することとなりました。

県生活支援専門アドバイザーに教わる、地域への入り方！

今回、SCと一緒に地域を訪問したのは、県生活支援専門アドバイザーであるCLCの宇城さん。訪問前の打合せで会話方法をレクチャーしていただき、実際に宇城さんの聞き取りを見せていただくことで、地域の方々との自然な会話方法、仲間に入れてもらって本音を聞き取る方法を教わりました！

詳しくは次ページ



CLC 宇城さん (左)

みなべ町の通いの場！

みなべ町では、高齢者が歩いていける「住民主体の通いの場づくり」に取り組んでいます。そこでは地域の方々を中心となって、健康づくり、支え合い、助け合いの地域づくりが進められており、地域の誰もが気軽に交流できる居場所になっているとのことです。通いの場では、主に体操や茶話会が行われており「いきいき百歳体操」「みなべふれあい体操」「わかやまシニアエクササイズ」などの体操が行われています！

みなべ町通いの場マップ

みなべ町と町社会福祉協議会では、地域の通いの場を地図に落とし込んだ通いの場マップを作成しています。一目でいつ、どこの地域で開催しているかがわかり、「ちょっと行ってみようかな」と思えるマップになっています。いつまでも地域のつながりを大切にしてもらいたいという思いで、高齢者のみなさんに参加を呼び掛けています！



県からのお知らせ

- 今年度から「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。
連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521



本音を聞き取る！地域訪問！

地域訪問は新型コロナウイルスの感染が落ち着いていた12月上旬に行いました。サロン活動が再開し、自発的な「集まる場」も目にとまるようになってきた時期で、多くの参加者等からお話を聞くことができました。その聞き取りの中でアドバイザーから教えていただいた会話のコツ等をまとめました。



地域の方々と一緒に時間を過ごす

今回の訪問では、体操サロンでは一緒に体操し、喫茶店では一緒にモーニングを食べ、グラウンドゴルフの集まりでは一緒にコースをまわりました。同じ時間を共有することで緊張が解け、身の回りのことや地域のことをたくさん教えてもらえました。宇城さんによると、同じものを食べて同じことをすることがとても大切とのこと。話をしてもらいやすくなることはもちろん、今後のSC業務で集いの場を紹介する際に紹介しやすくなるとのことでした。

SCの橋本さんは「一緒に時間を過ごすことがいかに重要かを感じた。今までの訪問とは違い、一歩踏み込んだことも話してくれた。」とおっしゃっていました。



一緒に体操



一緒にグラウンドゴルフ

話しやすい雰囲気を作る「ひとこと目」

会話のきっかけ、特に話しかける「ひとこと目」はとても難しく感じますが、宇城さんは、その人が話しやすい内容の問いかけをされていました。喫茶店で客に対して聞き取りをする場面、カウンターで脇に新聞を積んで順番に読んでいる方に対して宇城さんのひとこと目は「毎日、新聞を読みに来ているんですか？」でした。実際、話しやすいことから話してもらうことで、その後、快活な会話、聞き取りができました。

別の喫茶店では、お客さんが帰られていなくなった間に、店主に帰ったお客さんのことをきっかけに話しかけることで、店主が常連客の見守りをしていることや、県外から移住してきた店主と地域のつながりの現状を聞くことができました。



喫茶店で新聞を読む男性



店主に聞き取り

本音を引き出す会話術

会話のポイントは「相手に関心のあることが何かを考え、じっくり見ておくこと」とのことです。相手に関心のあることが何かを考え、話しやすい内容の会話を振ることで、それをきっかけにたくさんしゃべってもらえるそうです。体操サロンで話した女性は、しゃべること自体が好きそうだったので、自由にしゃべってもらい、地域での支えあいの事例を何件も聞くことができました。

他の方法として、あえて話を振らずに無言の時間を作ることで、気を遣って話をしてくれるのを待つというテクニックもあるそうです。元漁師さんとの会話では、始めは少し緊張気味でしたが、無理に話しかけずに待つことで、ご自身や地域のことを話してくれるようになりました。



温泉サロン参加の女性



温泉サロン参加の男性

住民の方の活動の邪魔をせず、通い続ける

本音を教えてもらおうと1回の訪問で全てを聞き出そうとせず、まず1回目は良い雰囲気をつくり、2回目3回目の訪問で踏み込んだ内容を聞いていけば良いとのことでした。

体操サロンでの聞き取りでは、サロン後に参加者宅に集まってのお茶会(2次会)やカラオケ(3次会)をしていることが聞けました。宇城さんは「あと2回くらい来たら、2次会に連れて行ってくれそう！その次は3次会にも連れて行ってもらう。」とおっしゃっていました。

また、今回2度訪れた漁港では、雨の日と晴れの日で集まる人が変わっており、何度も訪問することが重要だとわかりました。



体操サロン参加の女性



網を直している漁師さん